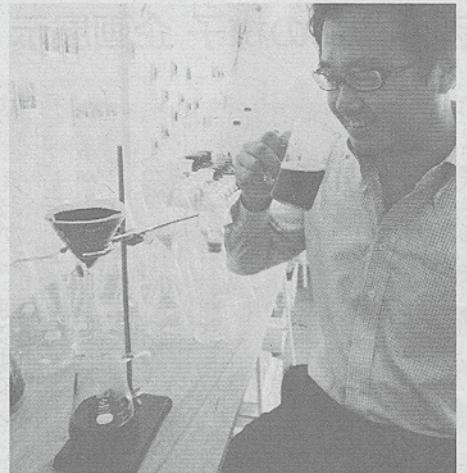


ビーカー・試験管…生活雑貨に

NEWSのたね

理系の女性を意味する「リケジョ」が流行語となり、国立大学で文系学部の廃止を含む再編が検討されるなど、近年理系に注目が集まっている。そんな中、ビーカーや試験管などの実験用品を食器として使うサイエンスバーや、生活雑貨として販売する店が話題だ。理系の人だけでなく、非日常の感覚や機能美が受けているようだ。

(高橋裕子、写真も)



漏斗や取っ手付きのビーカーでコーヒーを入れる実演をする関谷幸樹社長
18日、東京都江東区の「リカシツ」

理科室飛び出し非日常演出

試験管立てに並んだ赤と透明の液体は薬品ではなく、実は8種類の赤ワインと白ワインの飲み比べセット。用意されたプロ用の白衣を借りて試験管から小型ビーカーにワインを注げば、誰でも実験気分が味わえる。

東京・四谷のサイエンスバー「インキュベータ」。棚やカウンターにはワイングラスとともに実験用品がずらりと並ぶ。ビーカーはビールジョッキ、フラスコは酒器、アルコールランプはチーズフォンデュやスルメをあぶるのに使う。

ビーカーやグラスは実験のときと同様に純度の高い水ですすぎ自然乾燥。余計なものが混じらずワインの味がよく分かるという。

白衣を着て店に立つ店主の野村卓史さん(31)は医療機器の元研究者だ。「気軽に科学の会話をできる場を」と平成26年3月に同店を構えた。

「NEWSのたね」で取材するテーマを募集しています。「ニュースの窓口」にお寄せください。

ニュースの窓口
社会部 Eメール news@sankei.co.jp
社会部 FAX 03・3275・8750

野村さんは「研究者からみれば普段は食器として使わないもので飲食でき、背徳感がある。研究に縁のない人も気軽に実験の雰囲気を楽しめ、科学の世界が垣間見える。お客さまが求めるのは非日常だ」と話す。

一般向けに販売

実験用品を生活雑貨として一般向けに販売している「リカシツ」(東京都江東区)も話題だ。

木造アパートを改修した建物の一室が店舗で、ビーカーが傘になったランプが整然と並んだ実験用品を照らす。

運営するのは、大学や研究室などに理化学ガラスの実験用品を卸す老舗メーカー「関谷理化」(本社・東京都中央区)。一般向けの製品で新たな市場を開拓しようと今年4月にオープンした。

自社の職人による加工で、取っ手付きのビーカーや丸底フラスコから作る球体の小鉢、コーヒーを入れるために漏斗などオリジナル雑貨をそろえる。

理化学ガラスは、薬品にはもちろん、急な温度変化にも強いのが特長。においがつきにくく、香辛料を入れるのにも適しているという。

関谷幸樹社長(42)は、「お客さ

まの第一声は『懐かしい』という人が多い」と話し、「シンプルな機能美が好きな人に好まれているようだ」とみる。

購入者の発想で、番号がふられた小型のフタ付き容器は思わぬ「縁起物」に。もともとは揮発性の高い液体を入れて計量に使うもので、フタと容器にざらつきを作り隙間なく閉まるつくりだ。作ったときと同じ番号のフタと容器でなければぴったり閉まらないため、「好きな数字や、結婚記念日で買っていく人もいる」という。

お酒・コーヒー味わって

リカシツは9月24日まで東京・渋谷の雑貨専門店「渋谷ロフト」で期間限定のショップもオープンしている。

ショップを企画した渋谷ロフトの商品担当、数藤寿量さん(39)は、「近年理系が注目され、『リケジョ』は流行語から一般的になつた」とリカシツに注目した背景を説明。「単なるカップやグラスではない酒器やギフト用品などとして、いち早く紹介したかった」と意気込む。

実験用品で味わうお酒やコーヒー、球体の小鉢にはメダカや植物を…。アイデア次第でさまざまな楽しみが広がりそうだ。